

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 6年 3月
学)青森愛育学園 愛育幼稚園

1. 本園の教育目標 素直に話せる子 元気に遊べる子 思いやりのある子

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ①外遊びの充実度や子どもの興味・関心の広がりについての研究・実践・検証
- ②小学校への接続について ～架け橋プログラムの作成と保育実践及び小学校との連携～

3. 評価項目の具体的な内容について

①外遊びの充実度やその広がりについての研究・実践・検証

昨年度の自己評価では「外遊びの充実」という目標に対して達成に至らず、教員間の連携が不十分という振り返りとなった。そこで、今年度も引き続き取り組み、なぜ外遊びがこの幼児期に大事なのか。理論とその分野の研究についても理解を深めてみたい。

また、実践方法については「自然」と「健康な身体」というカテゴリーに分け、具体的な内容についてそれぞれのチームで目標や取組の指標を決め、定期的な実践を振り返る機会を持ちながら着実に進めていくこととする。教育課程にある子どもの育ちを踏まえ、子ども自身が主体的且つ夢中になって遊び、学び、他者と関わりながら成長する姿を目指したい。

②小学校への接続について ～アプローチカリキュラム・架け橋プログラムの作成と保育実践、小学校との連携

幼保小の架け橋プログラムについて、その内容と重要性について理解を深めると共に、幼児期と児童期をつなぐ接続期のカリキュラムを意識した取組について考えていく。

園のアプローチカリキュラム作成を通して、環境に関わって育つ幼児期の子どもの姿を改めて検証し、わかりやすく写真で表す等、小学校との連携に向けた材料を集めていく。

年長児と小学生との交流、小学校行事等への参加、そして教員間においても協議会や合同研修会を通して幼小の連携を高める機会を大切にし、継続した関係性の構築を目指したい。

具体的には地域の青森市立千刈小学校と連携し、幼保小教員が合同で行うオアシス会議や合同協議会へ積極的に参加し、まずは様々なことにチャレンジする一年にしたい。

4. 評価項目の達成目標や取組指標とその成果について

①外遊びの充実について

チーム自然	具体的な内容
目 標	多くの自然に触れて過ごす中で、様々な発見や自然の面白さに気づき、自ら遊びを楽しむ。
取組指標	① 戸外遊びの時間を保障し積極的に実践する。発見を楽しめる教材を進んで準備し、自然を取り入れた制作等、様々な遊びにつなげる。 ② 教材を活用した結果や反省を踏まえ、多様な素材の準備や導入の仕方の工夫等、改善を重ねていく。 ③ 実践をもとに教材研究を振り返り、結果、反省を教員間で共有し次年度に活かす。
成果指標	① 子どもたちが外遊びを楽しみにしたり、喜んで参加し、興味・関心を向ける。 ② 発見を楽しんだり保育者や友だちと考え工夫する等、子どもたち自ら行動するようになる。 ③ 自然の面白さや大切さに気づき、興味・関心を高め、自ら必要なものを考えたり調べてみたり、工夫することを楽しむ。
成 果	① 四季を通して自然には様々な変化がある事を知り、友だちと共感し合う姿が見られた。 ② 保育者が遊びの提供や用具の準備を主にする所から始まったが、次第に自発的に自然物を探し、遊びの中に取り入れ、工夫して楽しむ姿が見られた。 ③ 教材準備について、知りたいことに子どもが自ら気づいていく等の教材の渡し方や置き方、掲示の工夫はどうだったか、子どもが主体的に出来るようにするという、年齢や育ちに合わせた設定が必要だったのではないかなどの課題が出ていた。

チームパワー	具体的な内容
目 標	自らカラダを動かすことを楽しみながら健康な心と体を育てる。
取組指標	① 戸外遊びの時間を十分に確保し安全面に配慮した中で、子どもの興味・関心を捉え、必要な教材の準備をする。 ② 子どもの育ちの姿からカラダの発達を意識した遊びや運動を取り入れ、教材の改善、子どもの主体性を高める環境作りをする。 ③ 心身共にどのような成長がみられたのか、教員間で共通理解し次年度に活かす。
成果指標	① 色々な遊びがあることを知り主体的に遊ぶ。遊びの中で満足感を味わい、継続して遊びを広げることへの期待を持つ。 ② 新たなことができるようになったことに喜びを感じ、友だちとの話し合いの中で工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。 ③ 多様な動きを経験する中でスキルを身に付けようとし、年齢や育ち、それぞれの能力に応じて全身を使った活動や運動に取り組む。
成 果	① 友だちや教員が楽しむ姿から体を動かす事に興味を持ち楽しんでいった。様々な季節を感じたり、その良さを遊びに取り入れて継続的に楽しむ事が出来た。 ② 友だちと切磋琢磨しながら頑張った事が自信となり、意欲につながった。 ③ 様々な経験を重ねる事で遊びへの発想が豊かになり、遊びがより楽しくなるように主体的に活動する姿が見られた。

②小学校との連携について

	具体的な内容
目 標	アプローチカリキュラム・架け橋プログラムを作成し、幼児期にふさわしい生活を通して育つ、子どもの姿を大切にしながら、小学校への接続を意識した保育実践に取り組む。
取組指標	小学校との連携により、子どもがよりよい交流の場を経験すると共に、小学校に向けて自ら意欲的且つ積極的に行動することができるようその育ちを支えていく。 全教員で小学校との連携に取り組み、情報交換する。カリキュラムレベルでの話し合い等可能な限りで教員間における交流や連携に努める。
成果指標	一年を通して連携が充実し幼児教育と小学校教育との円滑な接続がある中で、子どもと保護者が安心して卒園、小学校入学を迎える。

5. 評価項目の達成及び取り組み状況とその成果

	評価項目	評価	取り組み状況とその成果
1	外遊びの充実	B	子どもが自発的に面白いことを発見し、主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。今年度は自然・パワーと2つのカテゴリーに分けてのチームで研究・実践に取り組んだが、それぞれの視点で意見やアイデアを出し合い、協力して進めることができた。2学期後半には情報ファイルを作った事で共有は深められたが、さらなる遊びの充実と発展に向けた方法を模索することや改善についての話し合いが十分ではなかった。 その他の工夫についても遊びの姿や様々な発見を写真で示す等、可視化することにより子どもの興味・関心につなげられるのではないかと。また、家庭への情報発信や子どもの育ちについての共有について、目標と結果のみにとどまり、その取り組みの過程(日々の実践や園内研修として取り組んできたこと等)による成果を分かりやすく保護者に示す伝え方が不足していたため、ホームページや手紙等をうまく活用した取り組みについても考えていきたい。
2	小学校との連携について	B	・青森市の働きかけによる「幼保小架け橋プログラム」への取組が令和5年3月より本格的に動き出したことから校長・園長間で連携と情報共有ができた。 ・園児の交流については小学校に対して積極的に働きかけ、様々な学校行事や小学生に触れることで交流の場が広がった。 ・教員間においては保育所も交えた情報交換の場が小学校を中心に開かれ、教員一人一人が架け橋について理解を深め貴重な情報交換の機会を得ることができた。 ・園内ではアプローチカリキュラム、架け橋プログラムの作成、その他「幼保小連携基礎講座」として年長組の保育参観を実施。幼保小・特別支援学校等の教員たちから様々な視点で意見交換がなされ、園の架け橋期の教育について外部の視点を入れたことで、自分たちでは気づけなかった子どもの姿と共に今後の展望についても深めることができた。 ・一方で小学校教育を知ること、幼児教育との視点の違いやそれぞれの「ねらい」について共通理解を深めるところまで達成できず家庭に向けたよりよい発信にも至らなかった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

6. 総合的な評価結果

評価	理 由
B	<p>前年度の自己評価や保護者アンケートをもとに教員間で共有したこと等に加え、今年度も継続した「外遊びの充実」と、コロナ禍を経て再開された「小学校との連携」について取り組んできた。</p> <p>外遊びが好き！楽しい！という気持ちの育ちと、子ども一人一人が一年の様々な取り組みを通して主体的に参加し、自分なりに自然や運動遊びに関わり、その世界を広げられたことが良かった。また友だちや教員の姿に導かれ、関わりながら面白さや不思議さといった、共に充実感を味わうという姿に成長できたことも喜びとなった。一方で、気候変動が大きくある中での外遊びの時間の保障や工夫、行事時期と並行して子どもの興味を広げることについて課題が残された。</p> <p>教員間では、「自己評価する」という点において、明確且つ具体的な指標が設定されていないことから評価の仕方が大まかになっていたことの改善として、前年度にはなかった取組指標・成果指標をカテゴリーに分けて設定。取組方法は少人数グループで進めていくこととした。これにより、教員一人一人が日々意識的にできたことや声を掛け合いすぐに実践につなげられたこと、役割に責任を持って取組を深められたことが教員間での連携の成果として挙げられる。小学校との連携についても教員たちが子ども・家庭の為に貴重な機会に皆で参加し、考えや思いを改めて共通理解することにつなげられた。</p> <p>以上の良さがある中で、もう一歩できたのではないかという一年の後半になってからの取組の工夫等が振り返りの中で出ており、取り掛かりのスピード感と一年間継続していくことの難しさに課題が残った。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

7. 今後取り組む課題

課 題	具体的な取り組み方法
子どものやりたい思いを叶える環境づくり	<p>次年度は、子どものやりたい遊びの時間を十分に保障すると共に、一人一人の興味・関心を深められる、様々な場所で主体的に遊び、体験し、その充実感を高めていくことのできる環境づくりにチャレンジしたい。また、「明日もやりたい！」という思いを大事にするため、継続でき発展していく遊び場づくりについても取り組んでいきたい。</p>